

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①言語活動の充実「考え」「書く」活動の推進【学校経営方針】 ②学びを深めるための「他者との対話」の充実【校内研究】	①「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では「どのくらい分かるか」の設問で「よく分かる」の回答が52%に対し、「どのくらい得意か」という設問で「得意」の回答は32%である。 ②同調査において「他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている」の設問の「当てはまる」の回答割合は、東京都の平均が39%であるのに対し、本校は33%である。	①授業の内容は分かるが、自分で話したり書いたりして表現するときにうまくできないことを経験していると考えられることから、授業ではノートやワークシートに文章を書く活動を多く取り入れる。自分の考えを表現することができた経験を増やす。 ②自分の考えを書く活動と併せて、書いたものを友達と読み合う活動を行う。活動の目的を「友達のよい点を見つけて取り入れる」と明確にし、他者との対話の視点をもたせた上で活動させるようにする。
社会	①学ぶ楽しさを実感させる授業、個に応じた指導の充実【学校経営方針】 ②資料提示の工夫【校内研究】	①アンケート項目「授業中、すすんで学習している」「授業中、集中して取り組んでいる」では、約95%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的な回答しているが、テストの平均点は84点であり、知識の定着が十分であるとはいえない。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」では、93%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的な回答しているが、資料提示の工夫をしていくことで、自分事として考えさせていく必要がある。	①自身の考えをもつ、伝え合う、深める、次への課題をもつ活動は繰り返し行い、意欲的に参加できる授業づくりを行う。また、知識の定着のためのワーク等を取り入れ、計画的に学習できるようにする。 ②教科書の資料だけでなく小平市や東京都の資料を精選するなど、身近な資料を活用することで、自分事として考えられるようにしていく。
算数	①東京ベーシックドリルの確実な実施と活用【学校経営方針】 ②考えや気付きを式や図、グラフ等を活用しながら伝える活動の充実【校内研究】	①診断テストの正答率は67.1%から72.4%と5.3ポイント上昇していることから、着実に身に付いていることが分かる。平均正答率が72.4%だが、個人の差は大きいと考えられる。 ②児童・生徒の学力向上を図るための調査の「(3) 問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。」では、都の平均に比べて1.5倍の児童が「当てはまらない」と回答していることから、図や表、グラフに表す技能や、使うことの良さの実感が不十分であると考えられる。	①東京ベーシックドリルの確実な実施や、放課後補充教室を活用することで、既習事項の着実な定着を図っていく。習熟度別学習では、ベーシックドリルの結果を基に既習事項の振り返りを重点的に行い、新しい内容の学習の理解を深められるようにする。 ②提示された問題に対して自分の考えを表現するときの手がかりとして、式や図、グラフ等を活用するよさが実感できるよう、活用できている児童の考えを共有したり、教室掲示を工夫したりして、授業づくりを行う。
理科	①教科担任制による「わかる」授業の充実【学校経営】 ②具体的な活動や体験の充実【校内研究】	①アンケート項目「授業中、すすんで学習している」「集中して取り組んでいる」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は約5割であり、児童が主体的に授業へ参加するような授業改善が必要である。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は約6割に留まっており、身の回りに起きる事象や生活経験、知識などと結びつけながら、児童が「分かった」と実感する学習を重ねる必要がある。	①児童が問題を解決するための実験方法を模索し、結果を予想したり、疑問を協議したりする時間を多く設定することで、児童がすすんで学習に取り組む授業の実現を図っていく。 ②単元の導入では、身近なものを使った体験活動を充実させることで児童の課題意識を高められるようにする。観察・実験場面では、ICT(カメラ機能や動画視聴など)を活用して活動や実験をどの児童も体験できるようにすることで、今後のアンケートで「授業は分かりやすい」に対して「とてもそう思う」の回答割合の上昇を目指す。
音楽	①めあてと振り返りのある「分かる」授業の充実【学校経営方針】 ②視点を明確にした丁寧な振り返り【校内研究】	①アンケート項目「授業中、すすんで学習している」「集中して取り組んでいる」に対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童は87%であり、児童が主体的に授業へ参加していると思われるが、残りの13%の児童に対するアプローチをさらに改善し、全体的な授業改善を必要とする。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」では、91%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しているが、実技などの個人差の大きい学習もあることから、個人のレベルをさらに引き上げ、「できた」を実感する学習が必要である。	①この数年コロナ禍で、歌唱、吹奏楽器への取り組みが減ったため、苦手意識が強く目立つことから、全体のバランスを見ながらも個人へのアプローチを充実させた授業作りを行う。また、細かく指導をくぎり、「できた」「わかった」を積み重ねた授業を行う。 ②今年度の学習発表会を目標に、全体で演奏する楽しさを味わわせるとともに、周りの友だちと協力しあい、積極的に取り組めるようにする。具体的には自分が演奏していない時間はほかの楽器の演奏を聴き、自分がその音楽の一員だということを意識させることで、自分の演奏をする時の振り返りにつなげる。

<p>図画 工作</p>	<p>①児童が「自分（たち）の学習を自分（たち）でつくる」授業の充実【学校経営方針】 ②学びを深める「他者との対話」の充実【校内研究】</p>	<p>①校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が99%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることができている。一方で互いに相談しながら自分たちで問題解決を行うことについては十分とは言えない。</p>	<p>①材料や用具、支持体、表し方などを複数提示するなどをして、児童が自分の思いに合わせて自ら考えたり決定したりすることができる授業づくりを行い、今後のアンケートでは「すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」の回答が95%以上になるようにしていく。 ②作品完成後だけでなく、製作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく。また、共同してつくりだす活動も行い、友人と関わり合いながら学びを深めていけるようにする。単元末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。</p>
<p>体育</p>	<p>①運動の日常化、体育的活動の充実【学校経営方針】 ②ふり返り活動の充実【校内研究】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は7割であり、運動の日常化を図るためにはさらに意欲を高める必要がある。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は約7割であり、運動や活動をふり返る学習を充実させて、児童が「分かった」と実感する学習を重ねる必要がある。</p>	<p>①主運動につながる運動で、手軽で容易な運動やゲーム形式の楽しい運動等を取り入れることで、児童の運動への意欲を引き出し、家庭や休み時間等に取り組める運動の具体例とする。 ②自分や友達の運動について、ワークシートや学習資料、ICTを活用して学習のめあてに対する成果や課題を捉えたり改善したりすることができるようにし、2学期以降の授業アンケートの同項目に対する「とてもそう思う」回答のポイントの上昇を目指す。</p>
<p>外国語 活動</p>	<p>①言語活動の充実「考え」「書く」活動の推進【学校経営方針】 ②意見を示させ、共有させる工夫【校内研究】</p>	<p>①「like」や「have」を用いて自分自身の好みや考えを英語で伝えることができる児童が大多数であるが、アンケート項目「授業はわかりやすい」に否定的に答えた児童が11%おり、英語の発話に抵抗や難しさを感じる児童が一定数いる。また、大文字と小文字を使って名札を作成する活動にはすすんで取り組む児童が多かったが、既習の大文字においてもまだ判別が難しい児童が若干数見られた。 ②基本的な話型の繰り返しを行うことで短い英文でのやり取りを行える児童が増えているが、新しい表現や難しい単語が出てくると習得に時間がかかり、中には授業中の発話を諦めてしまう児童もわずかに見られる。</p>	<p>①毎時間、既習の短い英文を用いた small talk を行うことで、英語で質問したり答えたりすることに対する抵抗を少なくし、考えを伝える場を増やす。アルファベットに関しても2学期以降月に2回程度書く活動を行い、4年生の学習範囲である小文字だけでなく、大文字に関しても復習を行い、高学年の描く活動に繋がられるようにする。書くことに抵抗のある児童も多いため、点つなぎやクイズ形式の問題も取り入れ、楽しく取り組めるようにする。 ②small talk の充実と共に、授業内でICTを効果的に活用し、自分の考えを示したり友達の意見を共有できる機会をつくったりして、児童同士がすすんで伝え合い、分からない時には教え合うことができる活動を行う。</p>
<p>道徳</p>	<p>①主体的に自己を見つめ、考えを深める授業の充実【学校経営方針】 ②多様な視点での気づき、ふり返り活動の充実～良さ・変化・生き方～【校内研究】</p>	<p>①場面や登場人物の様子に寄り添い、道徳的価値について一人一人が理解を深めることはできている。道徳的価値を自分の生活でも実現しようとする道徳的実践意欲を高めることが課題である。 ②「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」という設問で、肯定的回答が東京都平均を10ポイント以上上回っている。「他の人と相談して考えを深めようとしている」でも、10ポイント以上上回っている。</p>	<p>①授業の導入では自分の日常生活をふり返り、授業の終末では、学習を通じて学びを深めた道徳的価値について自分の日常生活に当てはめながら考えるように促す。また、教師の説話で児童の身近にあった出来事を取り上げる。 ②話し合うことを前向きに捉えている児童が多くいることを生かし、ペアで話し合う活動や書いた考えを読み合う活動をより多く取り入れることで、互いの意見や考えを交流する学習を充実させる。さまざまな意見や考えに触れる機会を増やすことで、多様な考えへの気づきを促す。</p>